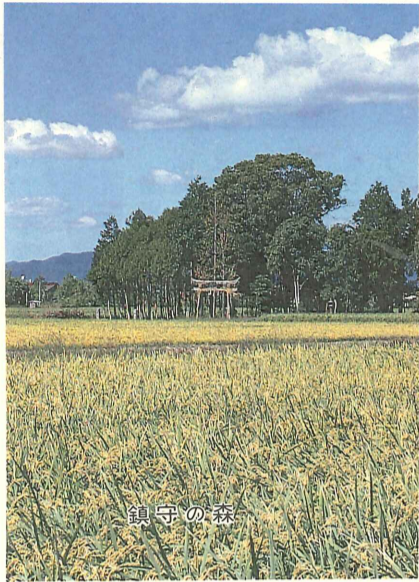


快適環境整備計画が出来上り

佐賀新風土づくり計画

と名付けられました



鎮守の森



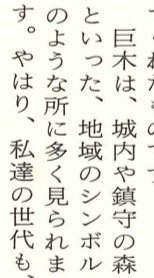
花の道づくり活動

市でも、街路樹の無剪定やクスのトンネルづくり等を行ってきました。緑づくり懇談会を開き、有識者から意見をきいたり



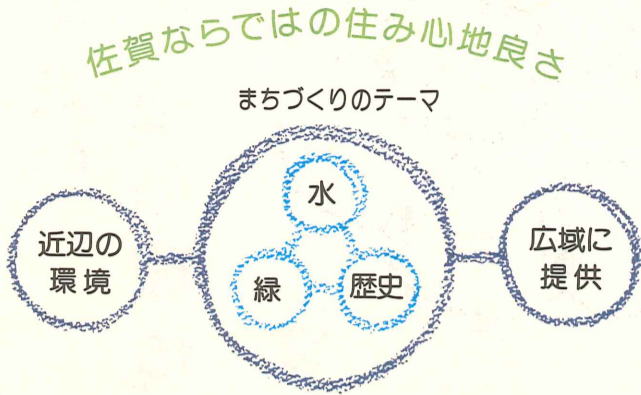
市内、北部山麓や多布施川河畔の桜の植樹、あるいは人生記念植樹など、市民とともに樹木を植えてきました。

また、城内や鎮守の森といった、地域のシンボルのような所に多く見られる。やはり、私達の世代も、



そうして、新たに樹木を植えるなどして、森のような樹木群を育てていきたいものです。森と言えば、北部山麓の山林も、なるべく自然のまま保存し、森林浴なども楽しめるようにする計画です。特にこの北部山麓は、市内で唯一の山林であり、自

然環境を学習する場ともなります。「水」と併せて、佐賀の自然を学ぶ機会を作ることは重要なことだと言えます。



まちづくり3つのテーマ

- ①水と緑と歴史を皆の手で皆のものに
- ②住み心地良い近辺の環境を
- ③広域で楽しさのネットワークづくりを

佐賀には、色々な「緑」があります。山の緑、里の緑、そして町の緑など多様です。そうした緑について、も

水と緑と歴史を皆の手で皆のものに

水と緑と歴史を皆の手で皆のものに

して、努力をしています。しかし、まだまだ十分ではありません。今後重点的に、皆でがんばる必要のあるテーマです。

佐賀といえはクス、と言う程佐賀ん町にはクスの巨木が多く、まちに風格を与えています。昔の人が植えてくれたものです。

巨木は、城内や鎮守の森といった、地域のシンボルのような所に多く見られます。やはり、私達の世代も、



一方、生活に身近なところでは、例えば、生け垣や庭先の花や木などは、外を通る人にも楽しいものです。歩く人の気持ちになって、楽しさを分けてあげる、そんな町は住み良いに違いありません。

まず第一に、緑について知ることに、「育てる」気持ちを持つことが大切です。せめて、夏の暑い日、家の前の街路樹に水をやる、それ位は実行したいものです。



まちかどの大きな木、緑陰

佐賀ならではの住み心地良さを育てていくのが「新風土づくり」です。佐賀の

まちづくりの3つのテーマ

町でも、色々なまちづくりの運動が行われ、以前に比較すれば随分活発になってきました。まちづくりが盛んなまち程、市民の愛着が強い、と言われています。どんな活発に行きたいもので

市民のまちづくり運動の他、当然なことですが市でも多くの事業を行っています。こうした運動や事業が



川を愛する週間、市民の活動

ところが近年、こうした水を利用しなくなったこともあって、とても汚れ、悪臭を放つものさえ見掛ける

この他、護国神社前のような子供の水遊び場とか、ホタル川づくり、しじみ、鯉の放流等、水に親しむ機会を増やす努力もされています。

今後は従来に引き続き下

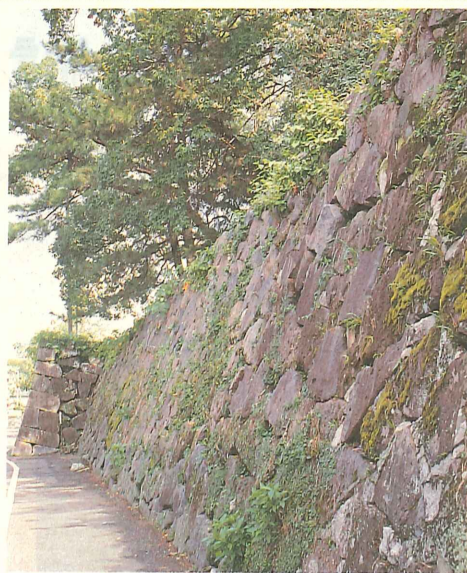
市では、4月に環境庁の指定を受けて以来、アメニティタウン計画を策定してきましたが、この程完成。計画は、「佐賀新風土づくり計画」と名付けました。見直そう、生かそう佐賀の良きという計画の趣旨にもつき、未来に向かって新しい風土を創造していこう、という気概でこの名前をつけました。計画では、行政がなすべきこと、市民活動に期待することが示されていますがここでは、その両方に関連する「まちづくりの3つのテーマ」を中心に計画を紹介し

ある程度共通した目標に向かって進んでこそ、全体として良いまちになります。てんでんバラバラでは、なかなかうまくいきません。そこで、運動や事業によって共通の目標となる「まちづくりのテーマ」を定め

第一のテーマ「水と緑と歴史を皆の手で皆のものに」の3本柱のひとつは、「水を皆の手で皆のものに」です。佐賀の水という堀(ク

ようになっています。そこで、心ある市民を中心として、川をきれいにす運動が起りました。市民総ぐるみ、春秋2回の河川浄化運動です。おかげで、川も随分きれいになって来

水道の整備(せつかく整備しても接続しなくてはなりません、ぜひ接続して下さい)を進めます。また、皆で努力をして、早くブン蚊都市の汚名を返上したいものです。(蚊は空きカンや古タイヤの中の水にも多く発生します)



歴史を皆の手で 皆のものに

歴史について市民の関心は高く、近年でも「よみがえれ佐賀展」「市民寺小屋」「語り部教室」「長崎街道歩こう会」「長崎街道まつり」「葉がくれの里みて歩き会」などの活動が行われています。

また、歴史のガイドブックの他、まちづくりの一環として、例えば「永遠に輝け佐賀の星たちよ」とか「日新読本」といった子供も読める本が出版されています。

歴史は「知る」ことによつて初めて、現在にのみがえると言えます。「歴史を皆の手で皆のものに」というテーマの中心は、やはり、郷土の歴史を知ることにあるわけですから、他都市から来た人に「佐賀市民の誰に尋ねても実に良く郷土の歴史を説明してくれる」と言われるように、なりたいものです。



長崎街道まつり

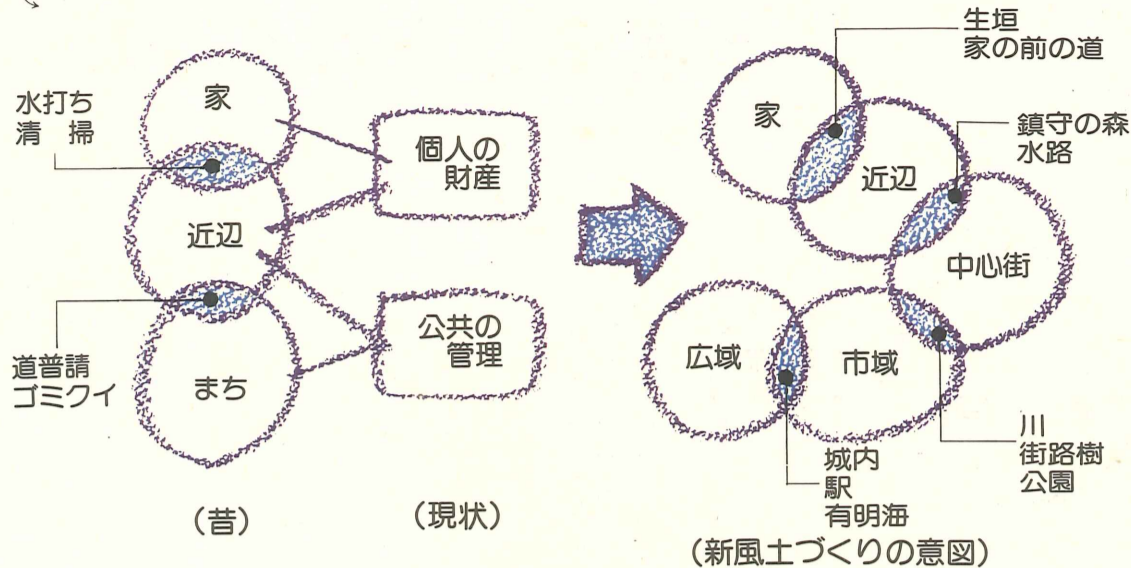
住み心地良い 近辺の環境を

自分達では良くわからない点もありますが、佐賀の気質は、地味だがお互いに人を大事にする、と言われています。

以前は、公役と称して道普請や草とり等を行いました。皆で汗を流すことと同時に三夜待などの楽しいつき合ひもありました。そのあたりから、地域のふれあいも進んだのだと思います。

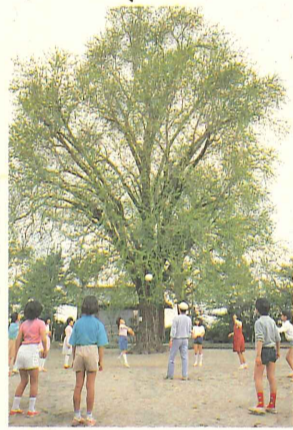
下の図の一番左端の円が重なっている部分は、皆で使う場所を皆で手を入れていた事を示しています。それが現状では、家の前の小道も役所が管理する。考えられたりしています。

今行なった調査によると、身近な環境についての市民、きれいな町づくりとシンボルづくり



(新風土づくりの意図)

の関心は、ゴミ、水の汚れ、道の不便さ、そして緑に集まっています。



現在も行われているゴミ分別やリサイクル運動は、より徹底することが大切です。空き缶拾いなどの運動も、ゴミを捨てない、あるいはゴミを作らないといった消費生活の見直しまで進展するわけです。

子供を近辺の子供として考える

最近の子供は外で遊ばなくなつた、と言われますが、それでも、近辺の環境とは深くかかわっています。子供は、近辺の環境の中で育つと言います。



一方、各地区には、その地域を代表するような場所とか祭りがあります。今後各各地区毎に、地域のなかで皆が盛りだるなシンボルづくりや祭りの振興などを積極的にすすめることが必要です。

一方、各地区には、その地域を代表するような場所とか祭りがあります。今後各各地区毎に、地域のなかで皆が盛りだるなシンボルづくりや祭りの振興などを積極的にすすめることが必要です。

一方、各地区には、その地域を代表するような場所とか祭りがあります。今後各各地区毎に、地域のなかで皆が盛りだるなシンボルづくりや祭りの振興などを積極的にすすめることが必要です。

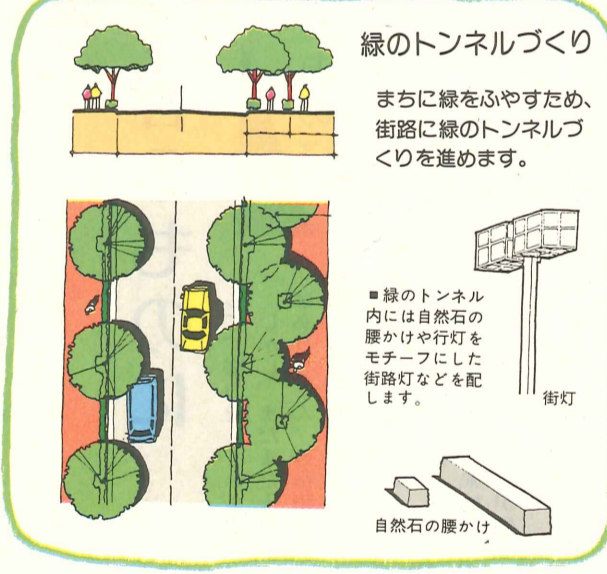
最近の子供は外で遊ばなくなつた、と言われますが、それでも、近辺の環境とは深くかかわっています。子供は、近辺の環境の中で育つと言います。



総合文化会館全体予想図

の建設運営で、広域での利用を考へることも必要です。さらに、市内や広域での佐賀らしい良さを楽しんだり、案内したり出来るように、情報を活用することが大切です。こうした情報と市民の佐賀人町案内人によって、佐賀広域へ訪れる

広域で楽しさの ネットワークづくりを

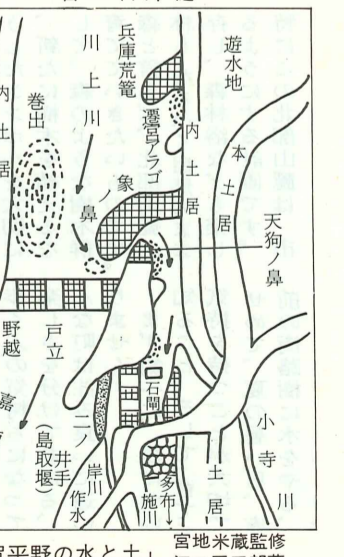


あるいは、古い家並みや民家が、当時の姿で復元されることを望む人が多いわけです。戦災を受けずに済んだ佐賀のまちには、古い寺社が多く見られます。なかには駐車場のようになつてしまつたところもありますが、やはり、地域のシンボルとして大切にしたいものです。

城内については、「歴史・文化の森づくり」を目指して、城内地域の環境整備が皆の手でスタートしました。長崎街道も、歩こう会や祭りの活動に加えて、歴史的雰囲気大切にしましたまちづくりが望まれています。



財もなるべく目で見、手で触つてみるのが望ましいのは、言うまでもありません。改修した豊増家の武家門や、復元した丸山古墳等は、その良い例です。もちろん、それが出来ない文化財もあります。



「佐賀平野の水と土」 宮地米蔵監修 江口辰五郎著

佐賀新風土づくり計画についてのお問い合わせは 佐賀市栄町1番1号 佐賀市役所総務部企画室 ☎24-3151内線132へどうぞ